

1 SI-101出土鹿角製装身具 2 軟玉製装身具 3～5 SK-105出土土器片・土製円板



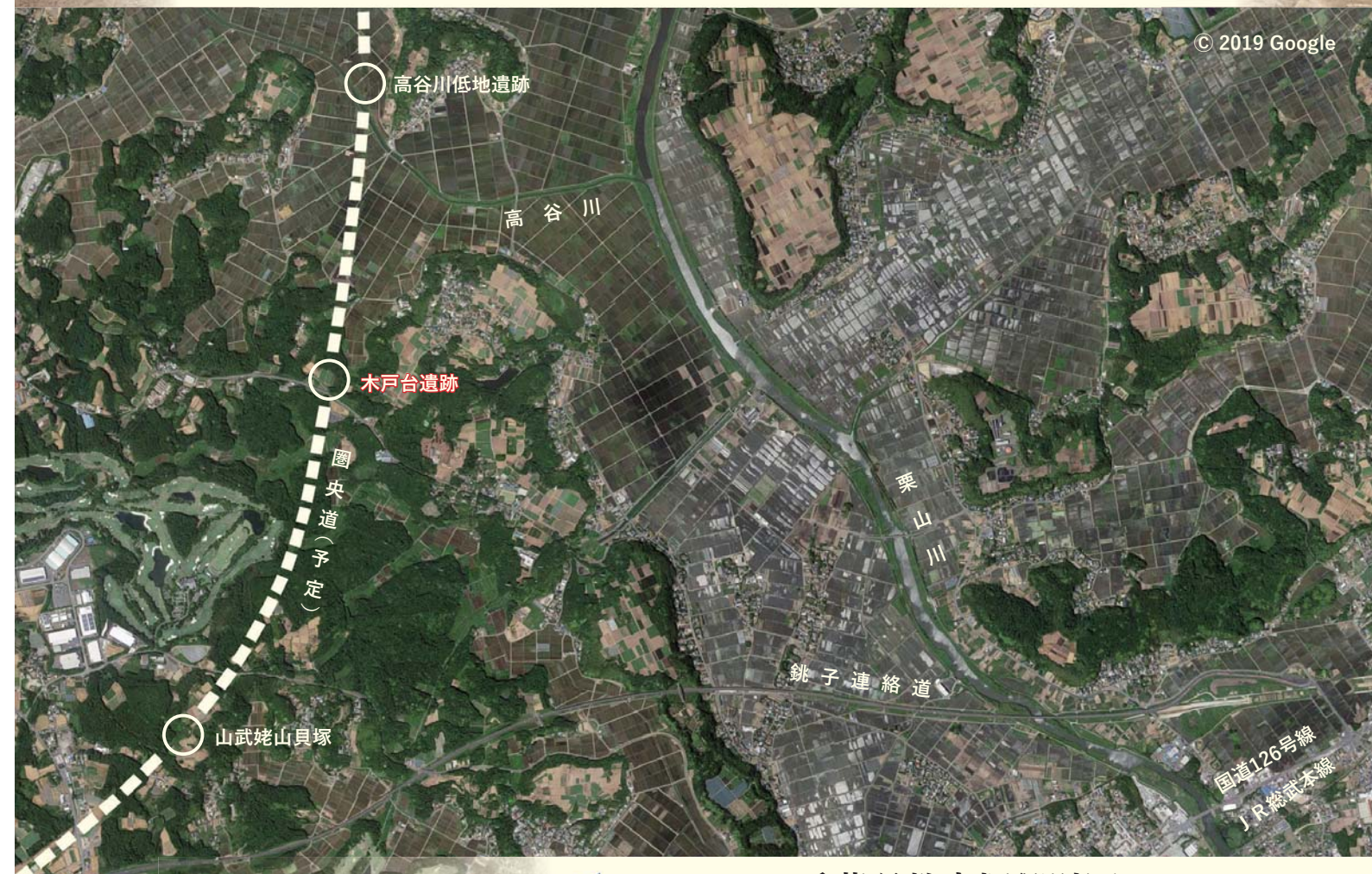
6～13 SK-105出土土器

木戸台遺跡の縄文時代の遺物

遺物の時期はいずれも縄文時代中期中頃～後半（約5千年前）です。1はSI-101から出土した鹿角製の装身具です。欠損しており、現存部の長さは約2cmです。垂れ下げ用の丸い孔が開けられ、表面には列点状の装飾が施されます。2は軟玉製の装身具です。当初は小形磨製石斧として製作されましたが、垂れ下げ用の丸い孔を開けて装身具に転用しています。3～13はSK-105から出土しています。3～5は壊れた土器片を再利用した土器片錘と土製円板です。6～13は大量に捨てられていた土器の一部です。6は押し引きした沈線で、7は縄文地に沈線で縦横に文様が施されています。8は山形の波状口縁の土器で全体に縄文が施されます。9・10は口縁部に未発達な杵状区画が形成されるキャリパー形を呈します。以上は深鉢形土器で主に煮炊きに用いたものです。11～13は浅鉢形土器で、主に盛り付けに用いたものです。文様は口縁部に施すか無文で、深鉢形土器に比べて簡素です。全体的には加曽利E式成立期の好資料と言えます。



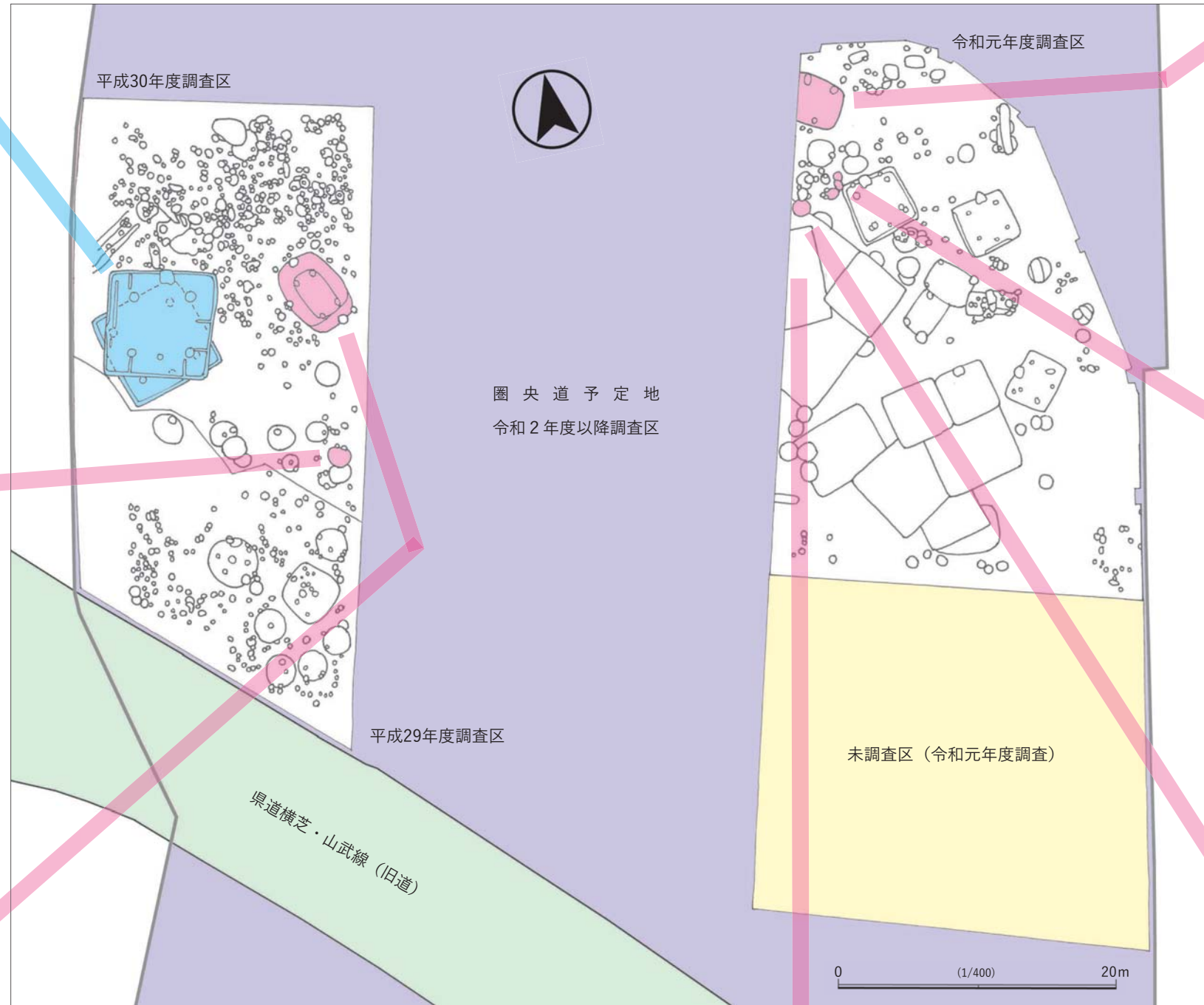
九十九里平野に面する縄文中期の大型集落
横芝光町 **木戸台遺跡** 見学会



公益財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター
後援: 千葉県教育委員会・横芝光町教育委員会
協力: 東日本高速道路株式会社

横芝光町 木戸台遺跡 きとだい

横芝光町木戸台遺跡は、九十九里平野を横断して太平洋に注ぐ栗山川と、その支流である高谷川右岸の標高38m前後の台地上にあり、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）大栄－横芝区間の建設に伴って、平成29年度から発掘調査が行われています。平成29・30年度の発掘調査では、縄文時代中期中頃～後半（約5千年前）の竪穴住居跡3軒、貯蔵穴と推定されるものを含む土坑48基、土坑墓1基、古墳時代の竪穴住居跡2軒などの遺構や地点貝塚が見つかり、土器、石器などの遺物や、人骨、自然遺物なども多数出土しています。今年度の発掘調査でも、縄文時代の竪穴住居跡や土坑、古墳時代から古代（奈良時代～平安時代）の竪穴住居跡など多数の遺構が見つかっています。眼下の栗山川流域は、縄文時代の丸木舟が数多く発見されたことでよく知られていますが、そういった地域の縄文時代の大規模集落跡として今後注目されることでしょう。



古墳時代の竪穴住居跡 SI-001・SI-002

平成30年度に調査されたSK-105は、貯蔵穴と推定される土坑の一つです。径1.8×1.5m、深さ0.6mの楕円形で、使われなくなった後、半ば埋め戻された上に、焼土や炭化物といっしょに縄文時代中期後半の大量の土器が捨てられていました。



縄文時代の貯蔵穴 SK-105

平成30年度に調査されたSI-101は、縄文時代中期中頃特有の「有段式住居跡」とよばれる形態の竪穴住居跡です。使われなくなった後に堆積した土の中には、チョウセンハマグリやダンベイキサゴを主体とする貝層が残されていました。また、鹿角を素材とした装身具（ペンダント?）も見つかっています。



縄文時代の有段式住居跡 SI-101



SI-101で見つかった貝層



SI-101で見つかった鹿角製装身具



縄文時代の軟玉製装身具が出土した様子



縄文時代の埋壙土坑 SX-1001



縄文時代の竪穴住居跡 SI-1001



縄文時代の土坑で遺物が出土した様子 SK-1003



縄文時代の土坑 SK-1003・SK-1004・SK-1006



埋壙が埋められた様子 SX-1001